備える 3.11から　第188回 南海トラフ地震の臨時情報

住民認知低く…危機感

南海トラフ地震の発生可能性が高まっている場合、津波避難が間に合わない地域の住民は一週間避難する―。これは、気象庁が「臨時情報」（巨大地震警戒）を発表した際、津波の発生前に住民を避難させる「事前避難対象地域」の住民たちが取るべき対応の一端だ。臨時情報の運用開始から五月末で丸二年。沿岸部を抱える自治体では、対象地域の指定や地域防災計画への反映が進むが、臨時情報自体の住民の認知度は高くなく、どう浸透させていくかが課題の一つとなっている。

（梅田歳晴）

愛知県豊橋市は二月に臨時情報の防災対応指針をまとめた。その指針の中で、十二の小学校区内の地域を事前避難対象地域に設定した。対象は三千百三世帯六千七百三十五人（昨年六月一日時点）。

「臨時情報を知っている方はいますか」。五月二十二日に豊橋市前芝地区で開催された自治会役員らが対象の勉強会。前芝小学校区内では二百六十九世帯六百五十八人が事前避難の対象になった。市の担当者が問い掛けると、手を挙げたのは参加者約十人のうち一人だった。

「皆さん、イメージしてください」。市担当者が続ける。「九州や四国沖で大きな地震が起きた場合、緊急地震速報が鳴り響きます。そして大津波警報が出る。揺れが収まって避難を始めるぐらいのタイミングで、臨時情報（調査中）が出ます。二時間後に臨時情報（巨大地震警戒）が発令された場合、事前避難対象地域の人は一週間の避難が必要になります」

過去に、南海トラフを震源とする地震が想定震源域の東側と西側に分かれ、時間差で起きたことがあることなどをスライドや動画を活用しながら説明した。「大地震に遭うのは一生に一度くらい。その発生の確率が高い時、対象地域の人はぜひ避難を。普段からの備えが大切です」と締めくくった。

臨時情報（巨大地震警戒）の発令中、対象地域内にある学校は休校になるほか、公共施設も閉まり、イベントなども原則中止になる。市職員が「どうですか。実際に逃げていただけそうですか」と聞くと、会場からは「隣の人の状況を見ながら…」との声や「学校を避難場所として考えていた。学校は使えないのか検討してほしい」などの意見が上がった。

自治会長の塩野浩史さん（六五）は「問題は具体的にどう動くか。そして自治会の役員以外の住民たちにどう理解してもらうか」と話し、検討するべき課題は少なくないとの考えを示した。対象地域を想定して秋の防災訓練を実施することも検討するという。

防災計画には反映／専門家「事前対策進める契機に」

南海トラフ地震で、大きな揺れや津波による被災や影響が見込まれる地域の自治体では、地域防災計画に臨時情報への対応を追加して反映させる作業や事前避難対象地域の設定などを進めてきた。

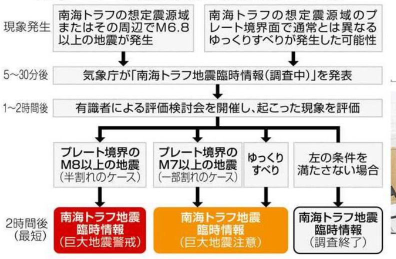
三重県によると、全二十九市町のうち二十市町で地域防災計画への反映が終わり、沿岸部を持つ十八市町のうち、十一市町で対象地域を設定した。愛知県でもほとんどの自治体で、計画への反映が終わり、対象地域の設定も沿岸部を中心に九市町村で設定済み。名古屋市は近く対象地域を公表する見通し。

名古屋大減災連携研究センターの福和伸夫教授は「臨時情報への対応は、地震対策を進める機会だととらえてほしい。避難先をどこにするのか、備蓄は十分か、臨時情報が出た時の実際のイメージを持ってもらい、住まいの耐震化など、地震が起きる前の準備をしっかり進めることが重要だ」と呼び掛けた。

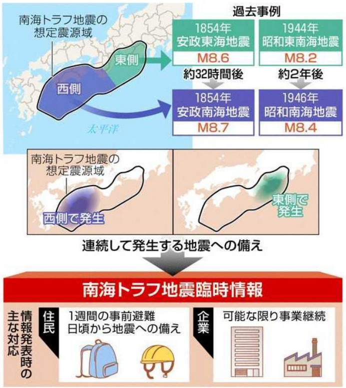
南海トラフ地震　駿河湾から日向灘沖の海底に延びる溝（トラフ）沿いで繰り返し起きる巨大地震。東海、東南海、南海の三つの震源域が連動すればマグニチュード（M）９級に達し、30㍍超の津波を引き起こす恐れがある。政府は最大で死者33万2000人と想定。震源域の東西いずれかでＭ８級の地震が起きる「半割れ」ケースでは、残る側で短期間のうちに後発地震が起きる可能性が指摘されている。

南海トラフ地震臨時情報に関する勉強会で、自治会役員らに説明する豊橋市の担当者㊨＝愛知県豊橋市で

南海トラフ地震臨時情報の情報発表までの流れ


現象発生
南海トラフの想定震源域またはその周辺でM6.8以上の地震が発生
南海トラフの想定震源域のプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりが発生した可能性
5~30分後
気象庁が「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」を発表
1~2時間後
有識者による評価検討会を開催し、起こった現象を評価
プレート境界のM8以上の地震（半割れのケース）
プレート境界のM7以上の地震（一部割れのケース）
ゆっくりすべり
左の条件を満たさない場合
2時間後（最短）
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）
南海トラフ地震臨時情報（調査終了）

南海トラフ地震の想定震源域
～時間差で起きる場合も～


南海トラフ地震の想定震源域
東側
西側
太平洋
過去事例
1854年 安政東海地震 M8.6
1944年 昭和東南海地震 M8.2
約32時間後
約2年後
1854年 安政南海地震 M8.7
1946年 昭和南海地震 M8.4
南海トラフ地震の想定震源域
西側で発生
東側で発生
連続して発生する地震への備え
南海トラフ地震臨時情報
情報発表時の主な対応
住民
1週間の事前避難
日頃から地震への備え
企業
可能な限り事業継続

災とSeeing さいとシーイング

忍者の里の大地震 伝える絵図

▼3▲ 伊賀上野城（三重県伊賀市）

㊤伊賀上野地震の被害を描いた絵図（手前）について話す盆野行輝さん＝三重県伊賀市の伊賀上野城で
㊦地震の犠牲者の供養のために建てられた「法華経塔」＝同市で

忍者の里として知られる三重県伊賀市。中心部の高台に立つ伊賀上野城は、白く美しい三層の天守閣から「白鳳城」とも呼ばれる。築城の名手として知られる藤堂高虎が本丸西に築いた「高石垣」が有名で、大阪城と日本一、二を競う高さ約三十メートルを誇る。

「実はこの城内や城下町は、一八五四年に起きた『伊賀上野地震』で大きな被害を受けたんです」。今回案内役を務めてくれた名古屋大減災連携研究センター特任准教授の菅沼淳さん（五四）が教えてくれた。

伊賀上野地震は内陸直下型で、伊賀市北部が震源だったとみられる。マグニチュード（M）は阪神大震災（M7・3）と同程度で、推定最大震度は7。当時の伊賀や伊勢、大和地方などで約五千八百棟が倒壊し、死者は約千三百人に及んだという。

その際、伊賀上野城と城下町がどれだけの被害を受けたかを詳細に記録した絵図が残っている。大小の二枚一組で、城内版（小）と城下町版（大）に分かれ、大きい方は縦一・三メートル、横一・九メートルほどある。

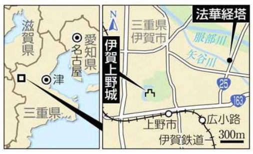
「白色の部分は石垣が崩れた場所を示している。地滑りを起こしたとみられる箇所もある一方で、高石垣はあまり被害が出ておらず、震度7の揺れにも耐えた。さすが築城の名手、高虎公ともいえる」と「城郭災害史」を研究する盆野行輝さん（五五）＝三重県鈴鹿市＝が解説する。

この絵図は地震発生から数カ月後、当時、伊賀などを治めていた藤堂藩が津から絵師を派遣して調査し、描かせたものという。盆野さんは「城を修理するには、幕府の許可を取る必要があった。幕府に提出するための調査で、ここまで地震の被害が詳細に記録されているものは珍しい」と話した。このほかにも、伊賀上野地震については当時の瓦版や体験記などの資料が残っているという。

次に向かったのは、城から東へ一キロほど離れた「法華経（ほけきょう）塔」。伊賀上野地震の翌年、犠牲者を供養するため、町人有志が建てた。もともとは法要が行われた近くの河川敷にあったが、倒壊の恐れがあり、「くれは水辺公園」内に移された。

塔の高さは五・七メートルあり、多くの犠牲者を出した悲しみの大きさが表されているかのようだ。菅沼さんは「地震はいつ起こるか分からない。資料を見たり、史跡を訪れたりすることで、当時の人々の悲しみや驚きを知ることができる。地震を『わが事』としてとらえ、防災・減災への備えにつなげてほしい」と語った。

地震の被害を記録したこれらの絵図は、伊賀市指定文化財。伊賀上野城の天守閣内で開催中の特別展「伊賀上野城と地震災害」（十二月二十五日まで、会期中は無休）に出展されている。一般への公開は初という。（榊原智康）


滋賀県
愛知県
名古屋
津
三重県
N
三重県伊賀市
伊賀上野城
法華経塔
服部川
矢谷川
25
163
上野市
広小路
伊賀鉄道
300m

アクセス　**伊賀上野城**　伊賀鉄道上野市駅から徒歩８分。名阪国道中瀬、同上野インターチェンジから車で約10分。入館料は大人600円、小中学生300円。開館は午前９時～午後５時。近くの市街地には老舗の和菓子店が多くある。みずみずしい「丁稚（でっち）ようかん」＝**写真**＝は伝統銘菓として人気。

法華経塔　伊賀鉄道広小路駅から徒歩12分。

ＣＢＣテレビによる動画はこちら

「備える」は毎月第一月曜日に掲載予定。次回は七月五日です。

（ｃ）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています